



2014年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2013年10月
大阪ガス株式会社

I. 14.3期第2四半期実績と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。

また、平素は、当社事業につき、ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ただ今から、2014年3月期 第2四半期決算と通期見通しについて、ご説明させていただきます。

14.3期第2四半期決算のポイント

対前年同期比較

■ 概況

連結売上高	LNG価格の上昇に伴い、 原料費調整制度に基づくガス販売価格が上昇したことなどから、 前年比6.4%(404億円)増収の6,703億円。
連結経常利益	時期ずれ差損の拡大(73億円→96億円)やガス販売量の減少により、 ガス粗利益が減少したことなどから、 前年比1.2%(5億円)減益の477億円。

■ ガス販売量

家庭用	気水温が前年より高く推移し、給湯・暖房需要が減少したことなどにより、 前年比5.1%(42百万m³)減少の789百万m³。
商・公・医療用	夏期の気温が前年より高く推移し、冷房需要が増加した一方で、 お客さま先で省エネルギーが推進されたことなどにより、 前年比0.4%(3百万m³)減少の774百万m³。
工業用	新規需要開発などにより、 前年比0.5%(10百万m³)増加の2,132百万m³。

2014年3月期 第2四半期は、増収・減益の決算となりました。

連結売上高は、LNG価格の上昇に伴い、
原料費調整制度に基づくガス販売価格が上昇したことなどから、
前年と比べて6.4%、404億円の増収となり、
6,703億円となりました。

連結経常利益は、時期ずれ差損が拡大したことや、
ガス販売量が減少したことにより、ガス粗利益が減少したことなどから、
前年と比べて1.2%、5億円減益の、477億円となりました。

ガス販売量について、家庭用は、
気水温が前年より高く推移し、給湯・暖房需要が減少したことなどから、
前年を5.1%下回る、7億8,900万m³となりました。

商業用・公用・医療用は、夏場の気温が前年より高く推移し、冷房需要が増加した一方で、
お客さま先での省エネルギーが推進されたことなどにより、
前年を0.4%下回る、7億7,400万m³となりました。

工業用は、需要開発などにより、
前年を0.5%上回る、21億3,200万m³となりました。

14.3期第2四半期決算のポイント II

対計画比較

■ 概況

連結売上高	主に関係会社の売上が減少したことなどから、 計画を2.0%(136億円)下回る6,703億円。
連結経常利益	電力事業利益の増加や、費用の減少などにより、 計画を15.0%(62億円)上回る477億円。

■ ガス販売量

家庭用	気水温が計画より高く推移し、給湯・暖房需要が減少したことなどにより、 計画を4.8%(39百万m³)下回る789百万m³。
商・公・医療用	夏期の気温が計画より高く推移し、冷房需要が増加したことなどにより、 計画を1.7%(13百万m³)上回る774百万m³。
工業用	お客さま設備の稼働減少などにより、 計画を1.4%(31百万m³)下回る2,132百万m³。

■ 投資など

新規事業拡大投資	第2四半期には英国・水道事業持ち株会社の株式取得を意思決定。 なお、上半期の 投資実行額は計431億円 (年間計画額の31%)。
----------	--

続きまして、2014年3月期 第2四半期の決算を、計画との対比でご説明します。

連結売上高は、主に関係会社の売上が減少したことなどから、
計画を2.0%、金額にして136億円下回りました。

連結経常利益は、電力事業利益が増加したほか、費用が減少したことなどから、
計画を15.0%、金額にして62億円上回りました。

ガス販売量について、家庭用は、
気水温が計画より高く推移し、給湯・暖房需要が減少したことなどから、
計画を4.8%下回りました。

商業用・公用・医療用は、夏場の気温が計画より高く推移したことなどにより、
計画を1.7%上回りました。

工業用は、お客さま設備の稼働減少などにより、計画を1.4%下回りました。

新規事業拡大投資は、9月に英国における水道事業持ち株会社の株式取得を意思決定しました。
なお、上半期の投資実行額は431億円で、年間計画額の31%にあたる進捗となっています。

14.3期第2四半期ガス販売実績

45MJ/m ³	A. 14.3期 2Q	B. 13.3期 2Q	前年差	前年比	14.3期2Q 計画値	計画比
お客さま数(千件)	7,101	7,057	+44	+0.6%	7,090	+0.2%
新設工事件数(千件)	40	37	+3	+7.8%	40	-2.0%
家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	22.5	23.8	-1.3	-5.5%	23.6	-4.8%
個 家庭用	789	831	-42	-5.1%	829	-4.8%
別 商・公・医療用	774	777	-3	-0.4%	761	+1.7%
工業用	2,132	2,122	+10	+0.5%	2,164	-1.4%
業務用計	2,906	2,899	+7	+0.2%	2,924	-0.6%
他ガス事業者向け	220	222	-2	-0.9%	221	-0.5%
(うち大口供給)	(2,485)	(2,479)	(+6)	(+0.2%)	(2,518)	(-1.3%)
ガス販売量合計(百万m ³)	3,916	3,953	-37	-0.9%	3,974	-1.5%
連結ガス販売量	3,932	3,970	-38	-1.0%	3,991	-1.5%

ただ今ご説明しました、ガス販売実績を、こちらにまとめております。


大阪ガス個別のガス販売量は、前年を0.9%下回り、計画を1.5%下回る、39億1,600万m³となりました。

工業用ガス販売を見ても、一部に設備稼働率が上昇しつつある業種も出てきていますが、製造業全体の回復にはもう少し時間がかかると見えています。

14.3期第2四半期実績 I

連結:億円			()内は連単倍率		14.3期2Q 計画値	計画比
	A. 14.3期2Q	B. 13.3期2Q	前年差	前年比		
売上高	(1.23) 6,703	(1.24) 6,298	+404	+6.4%	6,840	-2.0%
営業利益	(1.58) 447	(1.59) 448	-1	-0.2%	400	+12.0%
経常利益	(1.46) 477	(1.43) 483	-5	-1.2%	415	+15.0%
四半期純利益	(1.38) 316	(1.32) 308	+7	+2.5%	270	+17.2%
SVA	237	148	+88	+60.0%	77	+205.6%

		A. 14.3期2Q	B. 13.3期2Q	前年差	14.3期2Q 計画値	計画差
連結ガス販売量	百万m ³	3,932	3,970	-38	3,991	-59
時期ずれ差損益	億円	-96	-73	-22	-119	+23
原油価格	\$/bbl	107.7	114.0	-6.3	115.0	-7.3
為替レート	円/\$	98.9	79.4	+19.5	95.0	+3.9
連結子会社数		129	129	±0	---	---

14.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT-投下資本×WACC  夢ある明日を

こちらには、2014年3月期 第2四半期の決算数値を、
まとめておりますので、ご確認下さい。

14.3期第2四半期実績 II

連結:億円	A. 14.3期 2Q末	13.3期 2Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	15,937	14,647	15,668	+268	
自己資本	7,986	7,002	7,478	+508	利益剰余金、有価証券評価差額金、 為替換算調整勘定増等
有利子負債	5,424	5,502	5,401	+22	
在籍人員	20,212	19,935	19,870	+342	
自己資本比率	50.1%	47.8%	47.7%	+2.4	
D/E比率	0.68	0.79	0.72	-0.04	
	A. 14.3期2Q	B. 13.3期2Q	A-B		備考
設備投資	570	563	+6		
減価償却費	410	409	+0		
フリーキャッシュフロー	321	50	+270		棚卸資産(原料在庫)の変動等
ROA	2.0%	2.1%	-0.1		
ROE	4.1%	4.5%	-0.4		
EPS (円/株)	15.2	14.8	+0.4		
BPS (円/株)	383.6	336.3	+47.3		

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

7

 OSAKA GAS

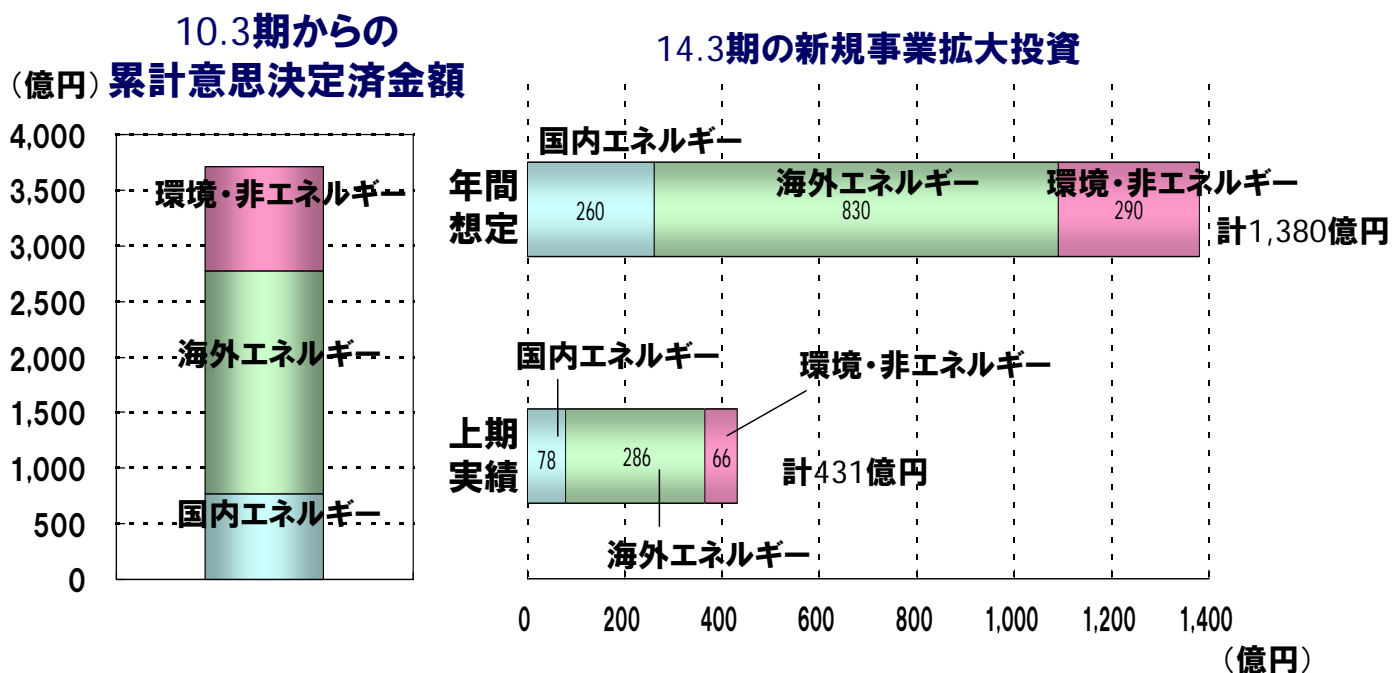
資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

設備投資は、国内での基幹導管建設投資や、
上流事業投資、LNG船の建造などを中心に、
前年並みの570億円となりました。

ROA・ROEは、それぞれ前年を若干下回り、2.0%、4.1%となりました。

14.3期第2四半期新規事業拡大投資実績

- パプアニューギニアのコンデンセート・ガス開発プロジェクトや、英国での水道事業への参画を意思決定。
- 10.3期からの累計意思決定済金額は**3,705億円**(10.3期～14.3期計画額の93%)。



投資額には設備投資案件と投融资案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

新規事業拡大投資計画の進捗について、ご説明します。

上半期は、パプアニューギニアにおけるコンデンセート・ガス開発プロジェクトや、英国での水道事業への参画などを意思決定しました。

この結果、中長期経営計画 初年度から4年半での累計意思決定金額は3,705億円となりました。

また昨日、スウェーデンに本社を置く活性炭事業会社の株式を100%取得することを発表しております。

引き続き、投資案件の発掘を進めてまいります。

14.3期見通し 修正のポイント

		今回見通し	当初見通し	差	備考
下期の 前提諸元	原油価格 \$/bbl	110	115	-5	
	為替レート 円/\$	100	95	+5	
個別ガス 販売量 (百万m ³) (45MJ/m ³)	家庭用	(1,393)	(1,393)	(0)	下期は 当初見通しの通り
	業務用 その他	2,182	2,222	-39	
収支 (億円)	連結売上高	(3,172)	(3,191)	(-20)	お客さま設備の稼働 減少等を織り込み
	ガス粗利	6,298	6,337	-39	
	連結営業利益	15,045	15,080	-35	
	営雑・附帯利益	3,185	3,215	-30	ガス販売量減少
	労務費・諸経費・ 減価償却費	363	333	+30	電力事業利益の増加
	関係会社利益	2,958	2,978	-20	諸経費、減価償却費 の減少
	連結経常利益	400	430	-30	米国上流事業の減益等
	990	1,000	-10		
	1,000	1,000	±0		

(注)ガス販売量の上段()内は、14.3期下期の数値(内数)。

9

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

続いて、2014年3月期通期の見通しについて、ご説明します。

まず、下期の前提諸元については、足元の状況などを反映し、原油価格を1バレル110ドル、為替レートを1ドル100円としています。

ガス販売量は、下期の家庭用を当初見通しの通りとする一方で、業務用その他では、お客さま設備の稼働減少などが下期も続くとして、当初見通しを3,900万m³下回ると想定しています。

連結経常利益につきましては、ガス販売量減少に伴うガス粗利益の減少や関係会社での減益を見込んでいるものの、電力事業を中心とした営雑・附帯事業利益の増加や、諸費用の減少などにより、当初見通し通りの1,000億円を想定しています。

14.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 14.3期 見通し	B. 13.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,112	7,086	+26	+0.4%
	新設工事件数(千件)	100	91	+9	+9.8%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	31.1	32.5	-1.4	-4.4%
	家庭用	2,182	2,272	-90	-4.0%
	商・公・医療用	1,486	1,540	-53	-3.5%
	工業用	4,350	4,222	+128	+3.0%
	業務用計	5,836	5,761	+75	+1.3%
	他ガス事業者向け	462	469	-7	-1.6%
	(うち大口供給)	(5,000)	(4,894)	(+106)	(+2.2%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,480	8,503	-22	-0.3%
連結ガス販売量	8,510	8,534	-24	-0.3%	

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

こちらには、通期のガス販売量の見通しを、前年と比較して整理しています。

家庭用は、前年を4.0%下回る21億8,200万m³、
 商業用・公用・医療用は、前年を3.5%下回る14億8,600万m³、
 工業用は、前年を3.0%上回る43億5,000万m³、
 大阪ガス個別のガス販売量は合計で、
 前年を0.3%下回る84億8,000万m³となる見通しです。

14.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 14.3期 見通し	B. 13.3期 実績	A-B	A-B/B (%)
売上高	(1.26) 15,045	(1.24) 13,800	+1,244	+9.0%
営業利益	(1.68) 990	(1.84) 847	+142	+16.8%
経常利益	(1.54) 1,000	(1.63) 901	+98	+11.0%
当期純利益	(1.43) 645	(1.49) 524	+120	+22.9%
SVA	269	186	+82	+44.0%
連結ガス販売量	百万m ³ 8,510	8,534	-24	
時期ずれ差損益	億円 -109	-207	+98	
原油価格	\$/bbl 108.8	113.9	-5.1	
為替レート	円/\$ 99.4	83.1	+16.3	

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

11

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

こちらに、通期の収支見通しを、前年と比較して整理しております。

売上高は、前年を9.0%上回る1兆5,045億円、
利益については、時期ずれ差損が約100億円縮小する影響が大きく、
営業利益が、前年を16.8%上回る990億円、
経常利益が、前年を11.0%上回る1,000億円となる見通しです。

14.3期見通し II

連結:億円	A. 14.3末見通し	B. 13.3末実績	A-B
総資産	16,568	15,668	+899
自己資本	8,023	7,478	+544
有利子負債	6,070	5,401	+668
在籍人員	20,201	19,870	+331
自己資本比率	48.4%	47.7%	+0.7
D/E比率	0.76	0.72	+0.03
	A. 14.3期見通し	B. 13.3期実績	A-B
設備投資	1,347	1,129	+217
減価償却費	793	828	-35
フリーキャッシュフロー	881	850	+30
ROA	4.0%	3.4%	+0.6
ROE	8.3%	7.3%	+1.0
EPS (円/株)	31.0	25.2	+5.8
BPS (円/株)	385.4	359.2	+26.2

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

12

 OSAKA GAS

最後になりますが、資産・負債項目や、主な財務指標の見通しを、こちらに、まとめておりますので、ご確認下さい。

通期のROA・ROEは、それぞれ、4.0%、8.3%となる見通しです。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

お手元には、ご参考資料として、さらに詳細な、決算の差異分析資料や、セグメント別内訳などの資料を付けておりますので、あわせてご覧下さい。

ありがとうございました。

II. 参考資料

14.3期トピックス

■ 英国・水道事業持ち株会社の株式取得に合意(9月発表)

- Sutton and East Surrey Water plc 社(SESW)の持ち株会社である Summit Water UK Limited社の株式を住友商事より取得することに合意。
(取得後株式保有比率：住友商事50%、大阪ガス50%)
- SESW：1862年設立、1989年に民営化された水道事業会社。
ロンドン南東部地域の約28万件に対して上水を供給。



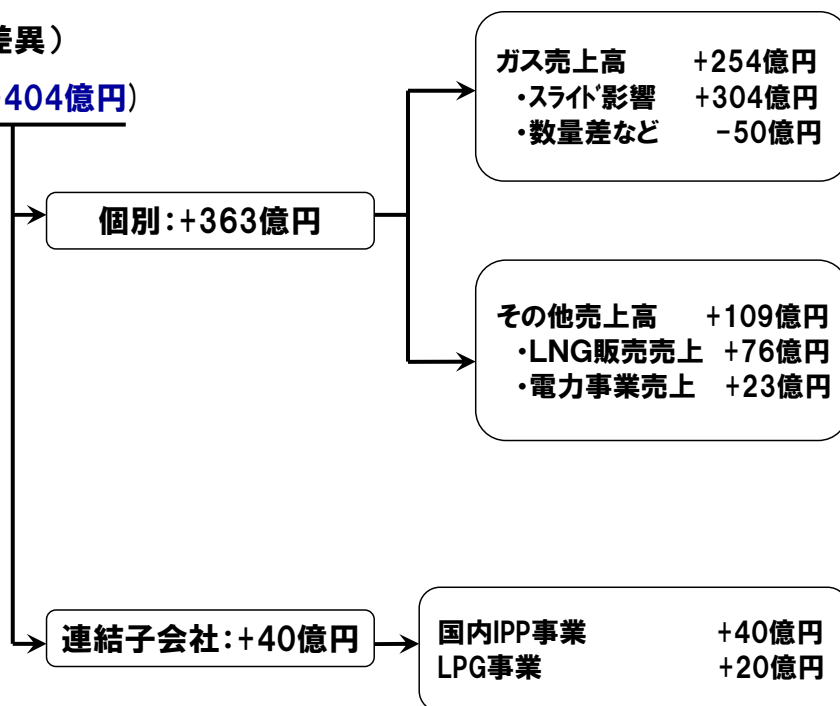
■ スウェーデン・活性炭事業会社の株式取得に合意(10月発表)

- Jacobi Carbons AB社の株式をAddSorb Holding AB社より100%取得することに合意。
- Jacobi Carbons AB社：1916年設立、世界10ヶ国の工場で活性炭を製造し、111カ国で販売を行う。
- 今回の株式取得により、当社グループは活性炭の製造・販売事業で世界第3位、高付加価値のヤシ殻活性炭に関しては世界トップシェアとなる。

14.3期第2四半期の売上高差異(対前年同期)

13.3期2Q → 14.3期2Q (差異)

6,298億円 6,703億円 (+404億円)

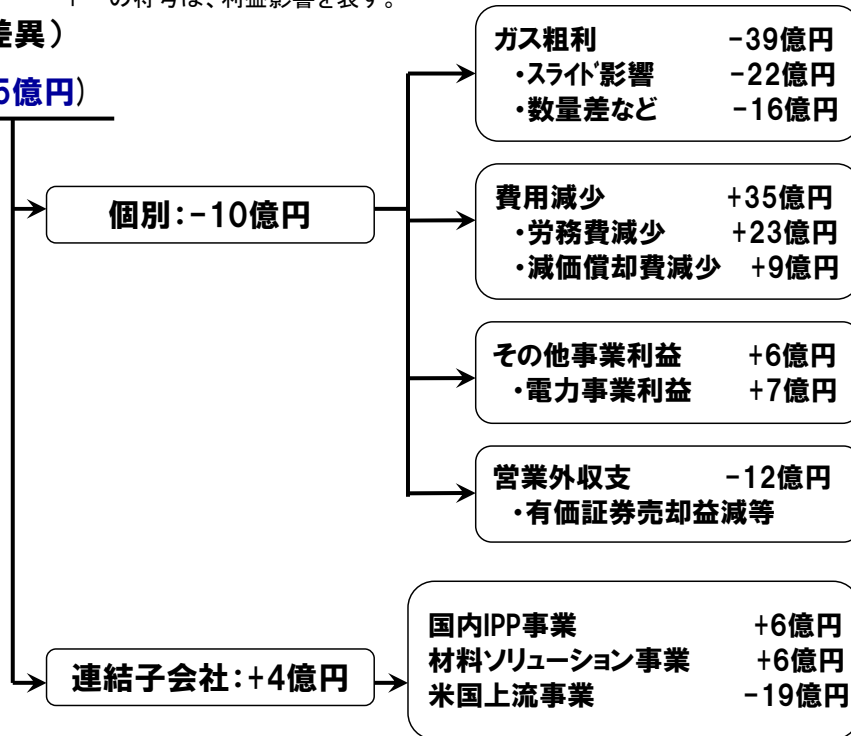


14.3期第2四半期の経常利益差異(対前年同期)

+-の符号は、利益影響を表す。

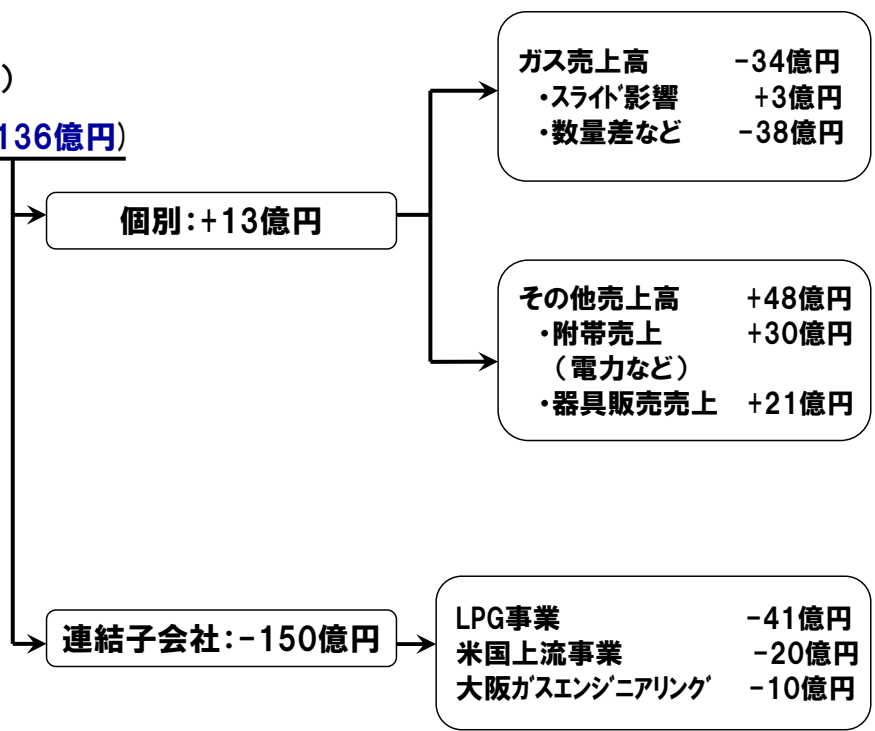
13.3期2Q → 14.3期2Q (差異)

483億円 477億円 (-5億円)



14.3期第2四半期の売上高差異(対計画)

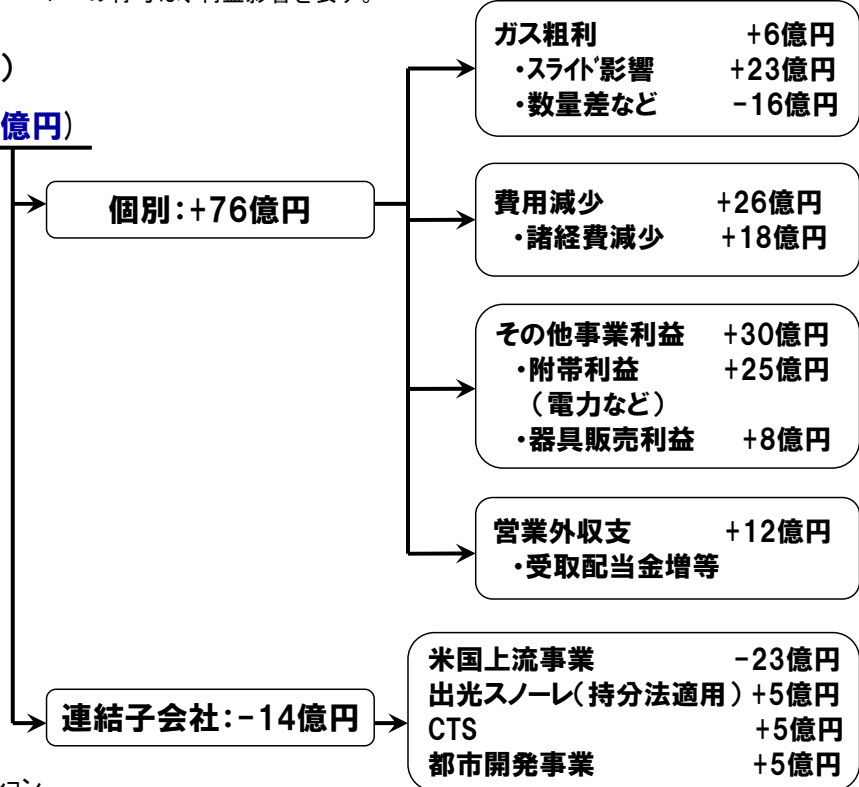
14.3期 14.3期
2Q計画 → 2Q実績(差異)
6,840億円 6,703億円 (-136億円)



14.3期第2四半期の経常利益差異(対計画)

+-の符号は、利益影響を表す。

14.3期 14.3期
 2Q計画 → 2Q実績(差異)
 415億円 477億円(+62億円)



CTS・・・クリエイティブテクノソリューション

セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	14.3期 2Q	13.3期 2Q	14.3期 2Q	13.3期 2Q	
ガス	4,967	4,713	143	146	売上:ガス販売価格の上昇
LPG・電力・ その他エネルギー	1,134	989	216	201	売上:LNG販売・電力事業売上増 利益:電力事業利益増 電力事業利益(**) 13.3 2Q 151億円 14.3 2Q 158億円
海外エネルギー	60	52	30	46	利益:米国上流事業利益減
環境・非エネルギー	880	843	86	77	売上:エンジニアリング売上増など 利益:材料ソリューション事業利益増など
消去または全社	-339	-300	13	13	
連結	6,703	6,298	489	485	

(*) セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

(**) 電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示。

Design Your Energy 夢ある明日を

 OSAKA GAS

セグメント別見通し

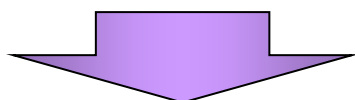
単位:億円	売上高		セグメント利益 ^(*)		備考
	14.3期 見通し	13.3期 実績	14.3期 見通し	13.3期 実績	
ガス	10,935	10,385	345	233	売上:ガス販売価格の上昇 利益:時期ずれ差損の縮小
LPG・電力・ その他エネルギー	2,600	2,155	425	382	売上:LNG・LPG・電力売上増 利益:電力事業利益増など
海外エネルギー	130	107	50	76	利益:米国上流事業利益減
環境・非エネルギー	2,045	1,856	215	190	売上:都市開発事業売上増など 利益:情報事業・都市開発事業 利益増など
消去または全社	-665	-704	30	27	
連結	15,045	13,800	1,065	911	

(*) セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

家庭用ガス販売

14.3期2Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.4%	
気温影響	-4.2%	平均気温23.7度(対前期+0.2度)
その他	-1.3%	
合計	-5.1%	



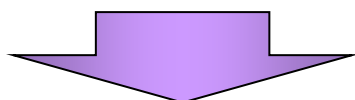
14.3期通期見通し

- 上期は、当初見通しを39百万m³下回った。
- 下期は、当初見通し通りで想定。
- 通期では、当初見通しを39百万m³下回り、対前期90百万m³減の2,182百万m³と想定。

商公医療用ガス販売

14.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.9%	空調需要を中心とした新規開拓
気温影響など	+1.0%	夏場の高気温による冷房需要の増加
その他	-3.3%	お客さまの省エネルギー推進等の影響
合計	-0.4%	



14.3期通期見通し

- 上期は、当初見通しを13百万m³上回った。
- 下期は、当初見通しを8百万m³下回ると想定。
- 通期では、当初見通しを5百万m³上回り、対前期53百万m³減の1,486百万m³と想定。

工業用ガス販売

14.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+3.1%	他燃料からのガス転換等
稼働増減 など	-2.6%	お客さま設備の稼働減少等
合計	+0.5%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比
機械	168	86.3%
金属	493	93.2%
ガラス	173	102.1%
食品	257	98.5%
化学	625	106.0%

14.3期通期見通し

- 上期は当初の見通しを31百万m³下回った。
- 下期も、上期実績を踏まえた下ぶれ(-9百万m³)を織り込み、通期では、当初の見通しを40百万m³下回り、対前期128百万m³増の4,350百万m³と想定。

月次工業用ガス販売の推移

13.3期 前年同月比(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
工業用計	99.6	102.8	100.6	102.4	96.7	96.1	98.3	99.2	98.9	88.7	88.7	93.9	96.9
業種別													
機械	121.2	109.2	111.2	118.4	104.6	105.4	106.4	104.5	95.3	94.1	81.0	75.2	100.6
金属	96.4	102.5	104.3	102.6	96.9	95.1	88.6	85.0	86.0	85.8	82.9	90.9	92.9
ガラス	100.5	97.1	99.4	100.0	99.5	100.9	94.8	107.0	101.6	100.2	95.1	99.7	99.6
食品	99.6	100.5	99.2	104.1	103.3	100.2	102.6	102.0	103.3	101.1	94.3	96.0	100.5
化学	96.1	102.5	101.0	105.8	102.3	102.0	96.8	99.0	119.2	101.3	102.9	103.1	102.6

14.3期 前年同月比(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期 累計
工業用計	100.6	97.6	97.3	103.0	99.7	104.6	100.5
業種別							
機械	87.1	87.4	77.9	89.1	85.8	89.9	86.3
金属	97.7	91.1	87.7	92.9	90.6	99.5	93.2
ガラス	100.9	102.0	102.0	107.8	101.4	98.3	102.1
食品	101.0	96.0	98.7	100.2	95.3	99.5	98.5
化学	110.4	103.5	104.0	107.0	100.9	110.4	106.0

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度3Q以降の経常利益は10億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度3Q以降の経常利益は16億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間5億円変動する可能性がある。